

# 森林のセラピー効果PR

## 遍路道に観光客呼び込みたい

### 篠栗町八十八カ所札所巡り 韓国人ツアー客増加

福岡市郊外の篠栗町は、八十八カ所の札所を巡る「お遍路さん」で知られる。古くより有名な巡礼の道だが、ここ数年、山歩きを目的とした観光客がじわじわと増加。韓国人観光客に人気の札所もあり、町は新たな観光資源として着目する。心と体のリフレッシュもかねて、足を延ばしてみたい。

【尾垣和幸】

今年8月、第一番札所、今年から客足が伸びたという。釜山から訪れた会社員のツアー客が列をなした。目当ては、95年に完成した全長41m、高さは「これだけ大きい」とさしげのブロンズ製の佛像。韓国でも紹介さ

お遍路さんは「篠栗



韓国人ツアー客でにぎわう南蔵院の涅槃像

四国八十八カ所と呼ばれ、1835年、村の疫病を鎮めた尼僧の発案で整備されたといわれる。各札所は代々寺院や地元の人々が管理し、全国から巡礼者が訪れる。

だが、車で回る人が増え、旅館の数も減少。各札所の維持管理も問題となっている。町産業観光課によると、道

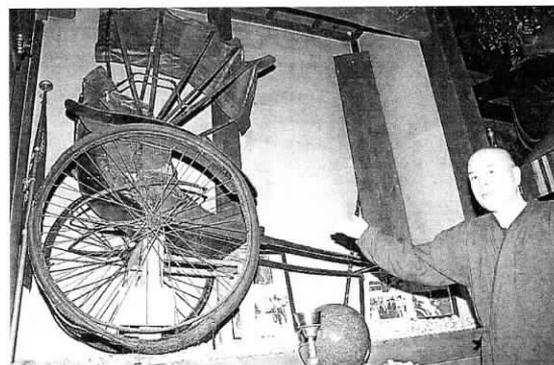
治いで旅人を迎えた旅館は、昭和40年代の約70軒から20軒にまで減少した。旅館業と札所の管理を兼ねていた人が多く、産業観光課には、「お遍路さんの維持には、観光客の誘致も必要」と語る。

9日、15カ所の札所を巡る約10kmの巡礼の旅に出た。61番札所山王寺には、映画無

法松の一生（43年）で俳優、阪東妻三郎が引いた人力車が保管される。小倉で人力車夫だった男性が使用していたもので、63年に寺に奉納されたという。

松下真明副住職は「今でも健脚を祈願する人が訪ねてくれます」と語る。

仏像が今にも朽ちそうだったり、若者が多く訪れる縁結び神社があるなど各札所は特色



阪東妻三郎が映画で引いたという人力車。あまり知られていないお遍路の目玉だ

10番札所、切幡寺の数野彦住職（43）は期待する。「心も体もすっきりしていただけるのがお遍路さん。自然でいやされ、一緒に仏像への興味をもってもらえたら、霊場は未永く保たれていくことでしょー」

山奥の札所には長い年月で風化しかけた仏像も、多くが江戸時代の物といわれる。



が光る。道はどこぞころ山奥に入り込み、踏み固められた道が歴史を感じさせてくれる。73番札所を先祖代々管理する有隈スズ子さんの（82）は「祖父が大車にしていたお堂だから、山歩きロードの整備も始めた。産業観光課は「韓国人客もなかなか巡礼には出てくれない。セラピー効果を前面に出して、観光客を遍路道に呼び込みたい」と話す。

ふくおか  
探索

### 各札所に仏像 88体を安置

◇篠栗四国八十八カ所 天保6(1835)年、四国八十八カ所巡りからの帰路に立ち寄った姪浜出身の尼僧慈忍が、疫病に苦しむ村のために祈願。疫病が治まったのは弘法大師のおかげとして、各札所の整備を提案した。没後は、地元の藤木藤助が志を継ぎ、各札所に安置する88体の仏像を作り上げた。総延長約50kmと、本場四国のお遍路と比べ短いのが特徴で、徒歩で3泊4日ほど。ほとんどの札所は車で回ることもできる。町内には、白衣や金剛杖など、参拝用具をそろえる店も並ぶ。詳しくは篠栗町観光協会092・947・1880。